丹波市 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

環境保全や自然教育に取り組む

尾形 真依子さん vol.47

経歴：兵庫県三田市出身。東京で営業職を経験後、子育てを機に自然に魅せられて丹波市へ移住。
任期：令和３年10月～

こんにちは、尾形です。丹波市に移住して半年がたちました。先日の大雪が降った日には除雪しながら巨大かまくらを作るなどして、子どもと一緒に丹波市の自然を楽しんで日々過ごしています。家から一歩外に出ると、今まで出会うことがなかった昆虫や植物、景色の移り変わりに出会うことができる、自然の雄大さに感動しています。

そんな私の活動の使命は「生物多様性の保全」です。少し難しい表現なので、「自然に関わる人の輪を広げていくこと」と理解し、活動しています。

令和４年度からは「自然体験プログラム」を青垣いきものふれあいの里と連携して行うことになりました。この取り組みは市内のこども園や子育て学習センターで行う予定です。

私が地域おこし協力隊として活動をする中で大切にしていることは、子どもたちの持っている感性を肯定し、自然は面白いと感じることをサポートすることです。まだまだ微力ではありますが、自然の楽しいこと、時には危険なことも伝えながら、子どもたちをはじめ、皆さんにも自然や地元に愛着を持ってもらえるように活動をしていきます。

登山道整備に参加し、山遊びを実践する尾形隊員

市長・林時彦の

時を駆ける

医療の道へ新たな門出「看護専門学校卒業式」

兵庫県立丹波医療センターの隣に、丹波市立看護専門学校があるのをご存知でしょうか。

７年前、県立柏原看護専門学校が県の行財政改革で廃校となるところを丹波市に移管されたのですが、３月４日には、７回目の卒業式を迎え、これまで２３０名以上を医療の道へと送り出してきました。

今年の卒業生は39名で、市内での就職者は19名とほぼ半数もあり、県内就職者はなんと34名にものぼります。また、近年は男子の看護師志望者が増えており、今年は、９名の男子学生が卒業しました。今年の卒業生代表今次龍世君の「卒業生の言葉」は、実習で経験した看護師としての気づきを「患者さんに寄り添うこと」と感動的に述べてくれました。

地域医療の問題点として、全国的に慢性的な医師不足が言われていますが、現状は、医師不足よりも看護師の不足の方が深刻です。十数年前、丹波市は地域医療崩壊の危機に瀕していましたが、看護師の皆さんのおかげで乗り越えることができ、今日の医療の発展につながっています。逼迫する医療現場のなか、昨年からの新型コロナウイルスワクチン集団接種でも看護師の皆さんにお世話になったのは記憶に新しいところです。

丹波市が誇る丹波市立看護専門学校をますます立派な学校にしていきたいと思います。今後も、看護師志望の大勢の若者が地域医療に貢献されることを願います。

丹波市長 林 時彦

卒業式で告辞を述べる林市長